

編 集 後 記

令和2年1月頃から世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス感染は本誌編集後記を書いている現在も収束していません。しかし、ワクチン接種の効果で重症患者は確実に減ってきており、国外旅行者も徐々に入国してきています。一方今年、北京で開催された冬季オリンピックが終了しパラリンピックが開催される前の2月24日にロシアがウクライナに侵攻しました。有史以来人間は世界のどこかで必ず戦争をしているようなのですが、この戦争には過去に例の無い大きな危険性を孕んでいます。国連常任理事国であるロシアが核兵器使用を仄めかしていることです。欧米の参戦を牽制しての事ですが、核兵器を使用しての第三次世界大戦が勃発しかねない緊張状態が現在も続いています。

このような世界情勢が影響したのか今回本誌に投稿された論文は例年に比べて少数でありました。発行を延期して次年度との合併号とすることも検討しましたが、新型コロナウイルス感染に関する論文もあることから予定通り発行することになりました。今年は第58回日本赤十字社医学会総会が10月6日に当院主催で開催されます。総会には当院からも多くの演題発表があることから本誌へも多くの

論文が投稿されることを願っております。

尚、病院として論文投稿を促進するために投稿者へのインセンティブを下記の如く設けております

1. 道内・道外問わず学会・研究会または研修会、および資格取得の試験への参加を出張として1回認める(参加費用含む)。
2. 学会誌・学術誌への論文投稿料の支払いを一回分病院で負担する。
3. 学会等年会費の支払いを一回分病院で負担する。

また、本誌は前号から医学中央雑誌に著者抄録も併せて収録されるようになりました。

是非、多くの職員が積極的に投稿していただくようお願い申し上げます。

最後に編集に携わっていただいた編集委員の方々、並びに査読を担当していただいた職員の皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年6月22日
旭川赤十字病院医学雑誌編集委員
真名瀬 博人

【旭川赤十字病院医学雑誌編集ワーキンググループ(編集委員)】

真名瀬 博人 浦 茂久 木ノ内 基史 多地 貴則
脇田 美穂子 山田 弘美 橋本 由美子 北崎 美月

【事務局】

図書室